

WONDER FULL LIFE EXHIBITION 2025

会期：2025 年 10 月 18 日（土）－20 日（月） 11:00-17:00 for all customers

2025 年 10 月 21 日（火）－22 日（水） 10:00-17:00 buyer and friends

会場：LINE-INC. LP-2 STUDIO

東京都目黒区青葉台 3-18-3 THE WORKS 3F



ニュー ワンダー フル ライフ

消えゆく素材や手しごとに目を向けながら、目指すのは小さな循環。時や場所、専門領域を超えて各地のつくり手や表現者たちとの巡り合わせを独自の手法でつづり、ファッションとアートを軸に創作を続ける大脇千加子が主宰する WONDER FULL LIFE。この度、10 月 18 日（土）～22 日（水）の期間、創作の柱のひとつであるファッションを中心にした 2025 年の展示会を LINE-INC. LP-2 STUDIO（東京・中目黒）を会場に開催します。

昨年、10 年に渡り創作の発表の場としてきた合同展「TRACING THE ROOTS」を終え、今年は単独での展示会となります。その共創を越えて新たに続いていくものづくりの旅の景色をご覧ください。

WONDER FULL LIFE



共創を越えて見えてきたあたらしくつづく景色

目に見えない記憶や歴史に敬意を払いながら
世界各地の伝統的な衣服や、
消えゆく手仕事を辿り
人の営みが小さく循環するような
現代の暮らしに寄り添うものをつくり続けたい。

これまで対話を続けてきた素材や
ものづくりのプロセスを通して
生まれたコレクションが並びます。

10年目を迎える私たちの現在地をぜひご覧ください。

WONDER FULL LIFE 主宰・大脇千加子

WONDER FULL LIFE 大脇千加子（オオワキチカコ）

WONDER FULL LIFE 主宰。2005年に立ち上げた自身のファッションブランドを経て、2016年より新たな創作活動として「WONDER FULL LIFE」を始動。FORM・MATERIAL・INTERACTIONを軸に、国やジャンルを超えたさまざまな分野の づくり手や表現者たちと協働し、衣服やアートオブジェに展開。展示会やイベントの開催をはじめ、オリジナルの作品制作、インスタレーションなど、幅広い活動を行う。 <https://www.wonderfullife.link>

LINE-UP



STANDARD

世界各地の民族衣装を新たな形へアップデートしながら、次の時代に残していきたい定番服。日々繰り返される変化の中で、時代に揺さぶられることなく、穏やかに、長く寄り添えるものを。ものづくりを支えてくれる人たちと、小さな循環を目指して素材から探求しています。今季より、ジェンダーや年齢の枠を越えて着られるニュートラルなラインを展開。着る人の余白に意識を置いたシンプルなデザインが、一人一人がもつ感性の幅を広げてくれます。

今季は、定番の素材を軸に、ミドルウェイトのリネンが加わり、中世ヨーロッパの古着からインスパイアされたシャツやカバーシャツを制作。クオリティをアップしたチャンドリーシルクに新色のニュートラルなグレーを展開、良質さとシンプルさを合わせもったシェイカーズブラウスが新型として加わりました。ユニセックスに着られる U コートにオーバーサイズを展開するなど、来年春のお届けに向けて充実のラインナップです。



LIMITED EDITION

ヴィンテージファブリックとの出会いからスペシャルなリミテッドエディションを発表。出会いから毎年重ねて取り組んでいる、インドの女性が家族の幸福と繁栄を祈って古布に刺し子を施すインドの手仕事の極み「KANTHA(カンタ)」。一枚一枚と対峙しながら柄や生地を繋ぎ合わせてつくった人気のローブやラップスカートに加えて、はじめてネオカフタドレスを制作。

今季はインドの家族経営の小さな工房でつくられたブロックプリントの7枚のサリーから仕立てた、ローブやブラウスが並びます。手仕事から生まれたテキスタイルを通して新旧が入り混じる時代の変化を感じながらひとつひとつに向き合い仕立てました。



HAND KNIT

2019 年よりはじまったオーダーから一年をかけて届ける HAND KNIT(ハンドニット)。WONDER FULL LIFE が描くかたちを、TAKI / 近藤里美さんがひと編みひと編み手を動かし、仕立てていきます。確かな温度が宿るものづくりを未来へ繋ぎ、非効率さの中で想像力を広げ、その技術を継承していくことに挑戦を続けます。

TALISMAN

WONDER FULL LIFE の初期からつくり続けている、世界各地から国境や時代を越えて手元に届いた石や銀細工を編み繋いでいくお守り。今季はエチオピアのウッドビーズや木の実を繋ぎ合わせたネックレスを多数制作、アーカイブしていたシリーズも一同に並びます。



KIMONO BABOOCH

日本で古くから継がれてきた職人たちの技が織りなした着物の帯をモロッコの伝統的な履き物バブーシュに仕立て直しました。裏側の糸を、一枚一枚丁寧に切り取って芯を貼り、手渡した手仕事のバトン。異国の文化が混ざり合い、日本の色彩を纏った履物として息を吹き返します。

昨年よりつくり続けてきたシリーズに加えて、Syn プロジェクトにて展開する文筆家・料理家 麻生要一郎さんの家族の歴史を纏った着物の帯を譲り受け、共にモロッコのマラケシュに運び、バブーシュに仕立てたものもご覧いただけます。着物や帯に織り込まれた装飾の美しさはもとより、その一枚一枚に内包される当時の情景や職人のこだわりなど、目に見えないたくさんの物語もまた魅力のひとつとなります。



accessories mau × WONDER FULL LIFE

国境を越えて失われつつある継承されるべき技術を、未来へと繋ぐ橋渡しのような役割を担うことに軸を置いて活動している小田宏美さんと始めたあらたな取り組み。タイのカレン族の村に足を運び、かたちづくられたオリジナルピースに、長い年月をかけて収集した古いビーズを譲り受け、ハーキマーなどの天然石と共に編みこみアートピースのようなバングルやリングが生まれました。今季はオーダーできるシリーズにあたらしいデザインが加わり、一点もののリミテッドピースも並びます。

小田宏美 (Hiromi Oda)

18歳の時にカナダに渡航、彫金に出逢う。以降長年に渡り彫金を学び、2005年「accessories mau」と屋号を付け制作を始動。現在、愛知県蒲郡市にあるガレージコーヒーという衣食の集合体の一角「uraya」という場所で制作を重ねている。デザインから制作までを自身で完結させる事で、より良い形で制作出来るように心がけ、2022年にタイのカレン族と共に、オリジナルの形を模索しながらカレンシルバー制作等も始めている。



chisaki × WONDER FULL LIFE

日本のものづくりに息づく技術と志の高さに共鳴し、国内外の様々な素材の可能性へとまなざしを向けながら、美しいつくり手たちや失われつつ素材の技術の行く末にも心を寄せ、ものづくりを進める帽子ブランド「chisaki(チサキ)」。昨年、初めて共同制作の軸となるマスターピースを制作。今季は旅を共にできるようにイメージした折りたためるシリーズを4色展開しています。

chisaki / 苮木 紀子 (Chisaki Noriko)

独学で帽子作りを始め、帽子ブランド「valeur (バルール)」を手掛ける。12年デザイナーとして従事したあと、2015年独立。2016年、株式会社「MAISON ENKU」を設立し、新たなブランド「chisaki」をスタート。国内外での展示会で作品を発表し日本を始め、ヨーロッパやアジア、アメリカでも好評を博す。 <http://www.chisaki.co.jp/>



Lue × WONDER FULL LIFE

真鍮を素材に用いた金工を手がける Lue/ 菊地流架さんとつくりだすアクセサリーのラインナップ。真鍮で形つくられたイヤークフは使うほどに馴染み、経年変化の美しい表情を見せ、たおやかに弧を描く真鍮に1点1点刻みこむように打ち込まれた模様は、手仕事の温度を感じさせてくれます。定番として絶え間なく届け続けているバングルに、新柄の“grass land”が加わっています。

菊地流架 (Luka Kikuchi) 「Lue」主宰。

17歳から父(菊地雅章)のアクセサリーの製作の手伝いを始め、24歳から真鍮によるカトラリーを作る「Lue」を始める。「Lue」は岡山県瀬戸内市で、真鍮を用いたカトラリー・雑貨・アクセサリーを製作しているクラフトブランド。これまでのデザインから手作業での制作までを行ってきた技術と経験を生かし、2013年、量産可能な「インダストリアルプロダクト」のラインを発表。自身の手で作り出した、ハンドクラフトの表情溢れる原型をもとに、洋食器・金物の産地として有名な新潟の燕の工場のスタッフと試行錯誤を経て、製造されている。



WONDER FULL LIFE junto con RAKU

メキシコのチアパスで、伝統的な編み靴ワラーチェを中心に職人たちと協業する「RAKU(ラク)」と WONDER FULL LIFE による新たなプロジェクト。多様な民族の暮らしの知恵が混ざり合うようなものづくりを続けます。現地の先住民、マヤの人々による伝統的な手仕事で編まれたレデスに琥珀の原石を入れたお守り袋に、新色の墨黒が加わりました。

Miki Nagamine (RAKU)

2004年にメキシコ移住以来、靴の製作を生業としながら、現地先住民の民藝文化とのコラボレーションや、技術継承の新しい形を、様々な模索。近年は文化背景の人類学的な洞察も深め、世界のスタンダードではなくメキシコのスタンダードに寄り添った物作りと展示を行っている。Mexico san Cristóbal de las casas 在住。RAKU ZAPATOS 主宰。

COUNTERPOINT EXHIBITION 2025

A place we share our re-creation journal

COUNTERPOINT は、国内外とさまざまな地へ旅をして、共鳴を重ねてきた LIGHT YEARS の細矢直子と WONDER FULL LIFE の大脇千加子が、旅をしながら出会った人や出来事、感じたことを構築するプロジェクトとして、2019 年よりスタート。衣服やアクセサリ、バッグなどに展開。音楽用語で多重奏を意味する「COUNTERPOINT」は、国や人種、様々なものが重なり合い、生まれる瞬間を探して、旅から生まれていくものをテーマに新たな形を探求していきます。

細矢直子 / LIGHT YEARS 所属 www.light-years.jp

大脇千加子 / WONDER FULL LIFE 主宰 www.wonderfullife.link



BLOCK PRINT

COUNTERPOINT の定番素材ブロックプリント。インドのジャイプールにある工房の傍らに眠っていた古い木版を使っています。古い木版から生まれる擦れは、手仕事の温度や心地よいゆらぎを感じさせてくれます。今季は、伝統的なインドの更紗模様とヨーロッパのリバティー柄が融合したような柄と色彩をつくりました。TRAVELERS（ツナギ）や PAAJAAMAA（パンツ）、COUNTERPOINT のアイコン的な形 JAPONAISERIE（ジャポネイズリー）に、RUFFLE BLOUSE が加わります。



BANGALORE SILK

時を重ねるごとに刻々と生産背景が変化する中でもつくり続けてきた COUNTERPOINT の象徴的な定番シルク。昨年からは、インド南西部に位置するバンガロールにて織られています。肌に触れた時の心地よさやしなやかな光沢が、上質な日常をつくってくれます。人気の TRAVELERS（ツナギ）は半袖と長袖を展開。今季は T シャツのように着られるシンプルな MUSLIM KULTA BLOUSE を新型として加えています。風を孕み 夏は涼しく冬は暖かい、シルクならではの着心地を楽しんでいただけます。

KUBA BAG

モノトーンに描き出された幾何学的な斜め格子をベースに、美しく描き出される多種多様な刺繍文様。福岡にある LIGHT YEARS から運ばれてくるのは、遠く離れたアフリカ中央部にあるクバ王国で伝統的に作られてきたクバ布。その独自の世界に惹かれて、身に着けられるバックに仕立て続けています。修復を繰り返されてきた小さな布の中には、多様な世界が存在するように感じます。直接は会ったことのない作り手と対話をするように、クバ布という一枚の布が語りかけてくる言葉に耳を傾けると、見えてくるかたち。新しい生命を得たクバ布の、次なる世界の広がりをお楽しみください。



PiRi + COUNTERPOINT SHEA BUTTER SOLID PERFUME

COUNTERPOINT の細矢直子がブルキナファソで出会った高品質なシアバターを、植物に魅了されて国内外でフィールドワークを続ける PiRi 川中恵さんに手渡し、エキゾチックな精油をブレンドして制作された練香です。深い森に入ったような包まれる感覚。土深く根を張るたくましい木々たちを感じる香りは心を鎮静し、温め、ポジティブなエネルギーを高めてくれます。

PiRi / 川中恵

植物の世界に魅了され、国内外の植物をフィールドワークとして行う。ジャングルの植物、畑づくりのアイデア、そして植物の使い方や食事はもちろん、薬やお茶、衣類、建築、祈りのためのアイテムなど、いろいろな形で私たちの暮らしを守り、共に生きているたくさんの植物たちの有用性を探す旅に出ている。



Syn | はじまりの白い布 botanical dye by Hljóð

WONDER FULL LIFEのもとへ、フォークシンガー森山直太朗さんから手渡されたのは、20年という時間の中で生まれたツアーTシャツの在庫と呼ばれる資産が、反毛という技術によって生まれ変わったまっさらな白い布でした。アップサイクルという名目のもとに、消費を繰り返すのではなく《いま、なぜつくるのか?》という原点に立ち戻り、舞台装飾の MATERIAL や衣装として役割を終えた後、再び WONDER FULL LIFE の元へと渡り、リミテッドコレクションとして中世ヨーロッパの古着からインスパイアされたシャツへとカタチを変えて、再び誰かの元へと巡ります。

柔らかな温度を感じるふたつの色彩は、今年の春に益子の古道具店 pejite で行われた舞台の傍らに添えられていた、花屋 Hljóð の草花から染料を抽出して染められています。色彩が生まれた場所で、静かに共鳴した洋服たちの小さな巡りをお楽しみください。

INFORMATION

sound & handcraft theater 「Syn - 01 Why keep making」

WONDER FULL LIFE/ 大脇千加子とアーティスト森山直太朗の共同企画として、2025 年 11 月 1 日（土）～3 日（月）の期間、京都文化博物館を会場に sound & handcraft theater 「Syn - 01 Why keep making」と題した舞台&展覧会を開催します。

Syn プロジェクトは、“音”と”ものづくり”を軸に、各々が持つ技や力や思考を交え、深淵に眠る本質的な感覚を呼び覚ましていく。さまざまな領域で活動する表現者やつくり手が、同じ景色を異なる目線から見つめ直し、その過程を複層的に重ね合わせながら、新たな表現を導き出す実験的なプロジェクトです。

本舞台では、5つのものづくりのストーリーから生まれた作品をご覧ください。大脇は、ものづくりのディレクターとして、時と縁によって彼らのものに巡り届いた布や古楽器を、参加アーティストやアルチザンとともにオブジェや衣服、楽器など新たなカタチへ転化させていきます。



会期： 2025 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）、3 日（月・祝）

会場： 京都文化博物館 別館ホール 京都府京都市中京区東片町 6 2 3 - 1

チケット：11 月 1 日 A 6800 円 / B 9000 円 /

11 月 2 日 C 6800 円 / D 9000 円 /

11 月 3 日 E 6800 円

チケット予約： https://t.livepocket.jp/t/syn01_2025

Instagram: @syn_theater_project



□ GENERAL CONTACT :

WONDER FULL LIFE 大脇千加子

090-1709-2020

info@wonderfullife.link

□ PRESS CONTACT :

デイリープレス 川村美帆

tel.03-6416-3201/090-4063-3081

mihokawamura@dailypress.org